

8 学校アクションプラン

令和3年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	学習指導の充実
重点課題	I C T機器を効果的に活用した授業の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の不足や学習内容への関心の低さ等から、学習意欲に乏しく、授業への参加に消極的な生徒が増えてきている。また、家庭学習においては、レポート等の課題は行っているが、予習復習などを行っていない生徒が多く、家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る必要がある。 ○ 1人1台タブレット端末の配備に伴い、さらに生徒が興味・関心を持ち、主体的に取り組むことができるよう I C T機器の効果的な活用を推進していかなければならない。
達成目標	1人1台タブレット端末を活用した授業件数 30件以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ タブレット端末の効果的な活用法や可能性を探り、その利用を推進する。 ○ 教員研修を積極的に実施し、I C T機器の効果的な活用方法を習得する。 ○ デジタルコンテンツを増やしていくとともに、学科・教科等で教員が情報共有できるようにする。
達成度	1人1台タブレット端末を活用した授業件数 328件以上
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ GIGA スクールや ICT 機器の活用についての教員研修会を外部より講師を招いて、4回実施した。 ○ タブレットの操作や活用方法に関する校内教員研修会(情報教育部主催)を5回実施した。 ○ 「Teams」上にオンライン学習のタブを作成し、教員間で情報を共有できるようにした。5名の教員が情報をアップしており、活用する上での注意点(生徒のTBはワリゲ防止のマイワ)や、オンライン会議での設定方法などの情報をあげている。 ○ 「Forms」を利用して、タブレット使用に関するアンケートを教員と生徒に実施し、メリットや問題点等を挙げる事ができた。 ○ 冬季休業中の課題として、1学年が検定演習問題をT e a m s 上にあげ、オンラインでの家庭学習として取り組ませた。
評 価	B 夏休み延長措置があり、タブレット活用の重要性が増し、多くの教員が1人1台タブレットを使用しての授業をおこなった。そのため、当初の目標を大きく超える授業件数になった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 件数ではなく、生徒の満足度を目標としてはどうか。満足度が学力につながる。 ○ コロナ等で急な遠隔授業に子供が対応できるか心配だ。 ○ 教える側の先生が、タブレット端末の操作等を熟知する必要がある
今後に向けての課題	<p>コロナ禍において、夏季休業期間の延長措置が取られるなか、生徒の学力確保のため、オンライン授業や課題・資料提供、協働作業など教育支援ツールの活用が必要不可欠となってきている。本校においても、「Teams」を用いて、オンラインによる学習指導を行っている。休校下でも学習できる体制を作り上げていくために、また生徒の学習理解を深める上でも、教員は教育支援ツールの活用技術を身につけておく必要がある、今年度の取り組みは意義があったと考える。ただ、まだ1度も活用していない教員もいるため、ただ授業件数を増やすだけでなく、タブレットを活用した授業改善例や効果的な活用方法等の情報共有を、教員間で進めていく必要がある。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山工業高校アクションプラン -2-

重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	規範意識の醸成と主体性の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「元気な挨拶、明るい笑顔」をスローガンとして2年が経過した。少しずつであるが挨拶が増えたり、服装面でも大きな乱れがなくなるなど改善している。 ○ 規範意識は持っているが、「これくらい」・「ちょっとくらい」という感覚から、校内でスマートフォン等を使用して指導を受ける生徒がいる。また服装についても概ね適切だが、ちょっとしたゆるみが見られる。 ○ 日頃から交通安全と関連法規順守の徹底を呼び掛け、また事故情報などを伝え、意識高揚に努めているが、ほんの少しの油断で事故につながっている。 ○ 時間を守ることの大切さを確認し、遅刻の減少を呼び掛けている。不用意な遅刻数は横ばいから微増傾向である。 	
達成目標	自転車事故件数：前年度比減を推進	
	携帯通信機器に関する指導数：前年度比減を推進	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 富山工業高校の伝統に誇りを持たせ、「富工ブランド」を育成することにより、所属する責任と規範意識の高揚を図る。 ○ 「元気な挨拶、明るい笑顔」をスローガンに校門や生徒玄関で挨拶を呼び掛けるとともに、服装の適正化のための指導を実施。 ○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒自身が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。 ○ 携帯通信機器に依存しない生活習慣を確立させるため、校内での使用ルールを徹底するとともに、ICTリテラシーの醸成を図る。 ○ 保護者や地域の方と協議する場で、現状の問題点を共有し、多方面からの指導を実践する。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車事故件数：30件 [R4.1.12 現在 R2：27件] ○ 携帯通信機器に関する指導数：23件 (R4.1.12 現在 R2：25件) 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の登校指導のほか、学期の節目に「生徒指導部通信」により、富山工業高校生としての自覚と責任を高揚させる。 ○ 発生した自転車事故の状況を分析した「事故報告書」をクラス掲示し、危険予知能力を養うことと、STなどで事故防止の呼びかけを行った。 ○ アンケートなどで各自の携帯通信機器の使用状況を認識させ、適切に使用できるよう呼びかけを行うとともに、休み時間での巡回指導など直接的な指導も実施した。 ○ 服装や社会でのマナーなど具体的なプリントを教室掲示し、富山工業高校生としての品格を自覚させるとともに、日常の生活習慣などについても適正化できるよう指導に努めた。 ○ 各学年・各学科と連携をとり、生徒に関わる情報を共有し、多面的な生徒指導を行った。 	
評 価	B	昨年度に比べ自転車事故件数が増加し、目標を達成できなかった。携帯通信機器使用に関して横ばいで推移している状況である。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ なぜ校地内で使用してはいけないのか、生徒が納得している必要がある。 ○ 電源を切るために正門前の歩道が渋滞するのは危険ではないか。 	
今後に向けての課題	富山工業高校生としての自覚と品格を持たせ、一工業人として胸を張って社会に巣立てる生徒を育成するため、日頃の生活習慣や規範意識などをより高めていけるかが課題である。そのための教員間の連携を深め、目標の共通理解を図ることと、生徒への情報伝達の深化が大切だと考える。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現 状	○ 自らの進路選択を主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感の希薄な生徒が少なくない。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させることが大切である。また、生徒自らが進路を選択できるように段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、コミュニケーション能力、計画性、判断力、適応力など）の向上に繋がる取り組みも必要と思われる。
達成目標	3学年における就職希望の達成度（一次推薦応募先の合格率）
	95%
方 策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導をする。
達 成 度	95.8%
具体的な 取組状況	○ 管理職、各学科、3学年、進路指導部で分担し、約100社の企業に電話連絡をして採用計画や卒業生の就業状況などの把握に努めた。 ○ 求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し、生徒に配布した。また、求人票の写しを4部ずつファイルに整理し、3年生の教室近くで閲覧できるようにした。 ○ 今年度より、就職希望者に対して複数社の応募前職場見学を実施した。応募先について、しっかりとした比較検討をした上で決定した。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて情報を提供した。 ○ 3年生を対象に卒業生による進路体験講話を実施した。 ○ 製造業・建設業を中心とするインターンシップ（11月中旬に3日間）を実施し、県内企業128社で2学年生徒が就業体験をした。 ○ 昨年度に引き続き、全生徒がキャリアパスポートの作成を通して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行う取り組みを行った。
評 価	A 一次推薦応募先の合格率は目標を達成することができた。不合格となった生徒は9名（民間企業5名、公務員4名）であった。
学校評議員 の意見	○ 応募前見学に2か所の企業に行けたことが良かった。 ○ 自分の希望した企業が合っている、合っていないの判断ができた。
今後に向けて の課題	○ 早い段階からの現実的な進路の目標設定と個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○ 社会から求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○ 学校生活全体を通して、高校卒業後の将来について主体的に考えることを意識させる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和3年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした、学校行事の活性化	
現 状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的な役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進し学校行事をもりあげる。	
達成目標	体育大会や球技大会において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 *事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。	
	運営・企画に積極的な参加意識度	75%以上
	学校行事に参加しての満足度	85%以上
方 策	○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。 ○ 球技大会について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、かつ体育委員、関係部活動部員などが意欲的に企画・運営に参加し満足できることを目指す。	
達 成 度	運営・企画（体育大会76%・文化発表会85%・球技大会87%） 満足度（体育大会97%・文化発表会95%・球技大会94%）	
具体的な 取組状況	体育大会……運営委員会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫 文化発表会……代議員会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫 球技大会……代議員会、運営係の増員、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫	
評 価	B	満足度や生徒自身の計画立案、計画、参加意識は目標に達したが、生徒会組織としての代議員会や運営委員会の認識が低く、各クラスとの連携が弱い。
学校評議員 の意見	○ 生徒が行事の計画立案を行うことは、おのの自ら前に進み、進言できるようになる。これは社会に出てからも大事なことである。 ○ 全生徒が参加するためには、生徒会と代議員の連携が不可欠だ。	
今後に向 けての課 題	○ 今年度の行事は、すべて新型コロナウイルスの感染防止対策を講じた中で、競技の見直し（種目・ルール・得点等）や運営方法などを整理したが、今後は現状に応じて新しいスタイルとしての企画・運営を行い、本校ならではの課題（科の人数や男女比）を解決する中で、さらに質をあげる工夫を考えていきたい。 ○ 主体的な学校行事の企画・運営を目指して、生徒会の在り方を見直していきたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

【定時制】

令和3年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	資格取得を活用した学習指導
現 状	<p>定時制に入学する生徒の多くは、卒業後、本校で学んだ専門的な知識や技能を活かせる仕事に携わりたいと考えている。</p> <p>しかし、入学以前の学習のつまずきに起因すると思われる基礎学力の不足により、授業内容を論理的・段階的に理解することに困難を生じる場面があり、学習態度も受動的である。そこで、以前より学校設定科目「生活」で学び直しという観点から漢字の読み書き、外国語（英語）の単語力、計算する力、社会生活を営むうえで必要と考えられる一般常識について指導することにより個人の資質・能力の向上に努めている。</p> <p>また、各学科の専門的な知識や技術の「基礎」から「応用」までを効率的に学ばせる補助的手段として資格取得を活用している。</p>
達成目標	全工協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格する生徒の割合 75% 以上【R2年度実績：60.0% R1年度実績：73.3%】
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科・学科の学習内容と関連づけて指導するなど効率化を図る。 ○ 生徒が達成感や成就感を実感できる効果的な指導法を模索する。 ○ 生徒の実状に合わせて受検資格を選定し、継続して意欲的に学習に取り組む力の養成を目指した補習計画を立案し遂行する。 ○ 生徒に目標や受検計画を設定させるなど、主体的に学習できる環境の充実を図る。 ○ 学校設定科目「生活技能」を活用し、基礎学力を礎にした、より専門的な知識や技能について学習する機会を増やす。
達 成 度	全工協会主催の資格や国家資格に1つ以上合格した生徒の割合 ◎検定合格者数14名（在籍17名）・・・82.4% 【2種目・・・1名、3種目・・・1名（R4.1.20現在） 在校生でのべ68種目】
具体的な 取組状況	○ 各学科の指導計画に従い、個々の生徒の学力に応じた内容と進度で課題等に取り組みさせることで、基礎的な知識や技能の定着を図るとともに意欲の高揚を図った。
評 価	A 資格取得に向けて意欲を持続させつつ、効果的な指導が行えた。
学校評議 員の意見	○ 立派な成果だ。自信をもって社会に出ているだろう。入社してから生きがいをもってやる ことが大事である。
今 後 に 向 け て の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始・終業式等での受賞伝達式で表彰し、達成感や成就感が得られる機会をつくる。 ○ 受検する資格を精選し、生徒の資質・能力に応じて、計画的な指導を実践する。 ○ 上位の資格へ挑戦し取り組んでいける環境を整備する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

【定時制】

令和3年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	<p>家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度に欠けたりする場合もある。また、減少傾向にはあるが授業遅刻や早退もみられる。</p> <p>最近では、自分の将来を考え、毎日登校する習慣を大切に、年間を通して無欠席できちんとした高校生活をする姿も見られるが、皆勤・精勤生徒の割合は50%を割り込む傾向にある。基本的な生活習慣を確立し、自主・自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実に繋がると考える。</p>	
達成目標	<p>年間の皆勤・精勤生徒の割合 50% 以上 (17人中9人) (平成28年度:50%、29年度:28%、30年度:46%、元年度:33%、2年度33%) *皆勤 = 1カ年の欠席が0日 *精勤 = 1カ年の欠席が3日以内 (皆勤・精勤においては欠課時数4で欠席1日として換算する)</p>	
対 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常での生徒とのコミュニケーションを大切にする。 ○ 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させる。 ○ 授業遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等の充実を図る。 ○ 将来を見据えた進路指導の充実を図り、日常生活の見直しを行う。 ○ 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ○ 保護者と緊密な連絡体制をとり、生徒の状況により、早期に対策を施す。 ○ 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。 	
達成度	今年度の皆勤・精勤生徒の割合:53% (実質登校者数17名中9名 12月24日現在)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の健康や生活状態を確認 (登校時、STなどでの声かけ) ○ 保護者との連携 (生徒の状況を相互で掌握、速やかに対応) ○ 教育相談 (養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見) ○ 授業出欠状況の確認と生活指導 (授業担当者による遅刻・欠席時数の集計) 	
評 価	B	<p>精勤皆勤生徒の割合は53%と目標の50%を達成している。一方で、10日以上欠席した生徒も4名と少なくない。今後は、長期欠席生徒の数が少なくなるような指導を行っていく。</p> <p>日常から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねた。自己不安、家庭不安など、心が不安定で消極的になり、欠席、欠課しがちな生徒には、教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図りながらスピード感ある対応が大切となっている。今後も、進級や卒業を目指して、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増えるよう、粘り強い指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夕方学校に訪れることがあるが、生徒昇降口で先生方が生徒を迎える姿をよく見る。生徒を大事にしているのが感じられ、とてもよいと思った。 ○ 日中アルバイトをしてからの授業は、大変だと思う。頑張りに感動した。後輩はこの実績を励みにしてほしい。 	
今後に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。 ○ 充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。 ○ 卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。 ○ 進路決定後の生活習慣の安定化を図る。 ○ 養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。 ○ 家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)